

次世代型医療機器開発等促進事業（介護テクノロジー社会実装のためのエビデンス構築事業）の令和7年度中間評価結果について

令和8年3月

国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
医療機器・ヘルスケア事業部  
ヘルスケア研究開発課

1. 中間評価の目的

研究開発課題について情勢の変化や研究開発の進捗状況等を把握し、これを基に適切な予算配分や研究開発計画の見直し（研究開発課題の加速・廃止・中止を含む。）の要否の確認等を行うことにより、研究開発運営の改善及び機構の支援体制の改善に資することを目的とする。

2. 課題評価委員会

書面審査実施： 令和7年12月24日（水）～令和8年1月13日（火）

ヒアリング審査実施： 令和8年1月22日（木）

3. 課題評価委員

別紙のとおり

4. 評価項目

(A) 研究開発進捗状況

- ・ 研究開発計画に対する進捗状況はどうか

(B) 研究開発成果

- ・ 成果が着実に得られているか
- ・ 成果は介護分野や高齢者支援分野の進展に資するものであるか
- ・ 成果は新技術の創出に資するものであるか
- ・ 成果は社会的ニーズに対応するものであるか
- ・ 成果は進出国・地域の介護分野や高齢者支援分野の進展に資するものであるか（※1）
- ・ 成果は進出国・地域の社会的ニーズに対応するものであるか（※1）
- ・ 必要な知的財産の確保がなされているか

(C) 実施体制

- ・ 研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されているか
- ・ 十分な連携体制が構築されているか

(D) 今後の見通し

- ・ 今後研究を進めていく上で問題点はないか
- ・ 問題点がある場合は、研究内容等の変更が必要か
- ・ その際にはどのように変更又は修正をすべきか
- ・ 今後の研究開発計画は具体的で、明確な目標が設定されているか
- ・ 事業化を見据えた計画となっているか
- ・ 事業化の実現可能性と効果の大きさが明確か
- ・ 計画の見直しが必要か

(E) 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

- ・ 介護ソリューション視点で検討した介護現場のニーズに基づいているか
- ・ 本事業の関連分野に関する知見を有しているか
- ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守しているか
- ・ 廃止・中止等の措置が必要か

(F) 総合評価

(※1) を付した項目については、開発補助と海外展開の両方の分野で採択された課題についてのみ、評価項目に含める。

5. 評価対象課題

開始年度	研究開発 代表者	研究開発機関	役職	研究開発課題名
令和6年度	堀井 新司	東レ株式会社	主席研究員	おむつ組み込み型排尿検知センサーを用いた排尿予測システムに関する研究
令和6年度	岡田 真和	コニカミノルタ株式会社	担当部長	センシングによる高齢者のアセスメント及びそのデータを活用した状態像の維持・改善を目指した研究開発

6. 総評

令和6年度に採択した2課題を対象に、課題評価委員会による書面審査及びヒアリング審査による評価を行いました。その後、総合討論を行い、課題評価委員会としての評価結果を確定しました。評価委員の審議の結果、2課題とも令和8年度まで研究開発を継続することとなりました。

(別紙)

『次世代型医療機器開発等促進事業（介護テクノロジー社会実装のための  
エビデンス構築事業【開発補助】）』  
課題評価委員会 委員名簿

令和8年1月22日現在

(五十音順)

氏名	所属	役職
青山 竜文	株式会社日本政策投資銀行 設備投資研究所	上席主任研究員
◎井上 剛伸	国立障害者リハビリテーションセンター 研究所	シニアフェロー
五島 清国	公益財団法人 テクノエイド協会	企画部長
中村 洋	学校法人慶應義塾大学大学院 経営管理研究科	教授
二瓶 美里	東京大学 情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 / 工学部 機械情報工学科	教授
藤井 千枝子	学校法人慶應義塾大学 看護医療学部	教授
舟田 伸司	一般社団法人富山県介護福祉士会	会長
本間 敬子	学校法人早稲田大学 大学院 基幹理工学研究科	教授
渡邊 慎一	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市総合リハビリテーションセンター	センター長補佐

◎： 評価委員長